



2020年10月ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスンに発表されたスウェーデンからの衝撃的な内容です。図の橙色実線で示される HPV ワクチン非接種の場合、24歳頃から子宮頸がんが増えてきます。一方、緑色点線で示される17歳未満で接種を受けた場合は、ほとんど抑えられています。

我が国は、定期接種である HPV ワクチンについて2013年6月に厚労省が接種勧奨を中止したため、各自治体からのお知らせ・予診票が各家庭に送られなくなりました。そのため、今でも無料で普通に受けられる定期ワクチンでありながら、その存在自体を知らない方がほとんどになりました。現在、HPV ワクチン国内接種率は1%未満で推移しており、このグラフでは橙色の状況になっていると思われます。なるべく早く、多くの若い日本女性が、このワクチンの恩恵を受けられるようにしたいと思います。